



# 研究成果の社会還元・普及事業

平成17年度予算額：約3千万円

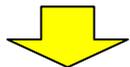
## 日本学術振興会の役割

研究者の自由な発想と研究意欲を源泉として新たな知を生み出す  
学術研究を支援

**学術研究の成果は、人類社会共通の知的資産として文化的価値を形成**

人文・社会科学から自然科学まで、学問領域を限定せず、幅広くバランスをとって振興  
将来の学術研究を担う優秀な研究者の養成

(本会中期目標より)



## 社会還元・普及の方向

優れた研究者が科研費による研究成果を分かりやすく発信

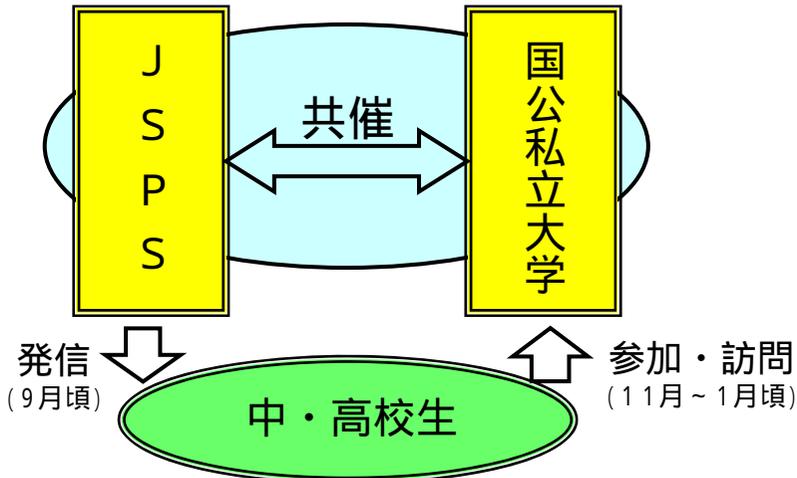


将来の科学技術創造立国の担い手である生徒の知的好奇心と創造性を育む  
生徒が優れた研究者に接し、最先端の学術研究成果に触れる  
科学(学術)を通じて心の豊かさの実現を図る

## 具体的方策

生徒が将来に向けて知性や学習意欲が湧きでるような内容とし、最先端の研究成果を分かりやすく語りかけ(講演)、対話(トーク)することにより、優れた研究者自身の歩み(研究を志した動機等)や人柄に間近に触れることにより学問の素晴らしさを会得してもらう。

## 実施体制(案)



具体的な取組については、本会内に事業推進委員会(仮称)を設置し、実施方針の検討、実施機関(大学)の選定、個別テーマ・プログラムの選定、並びに中・高校生の参加方法等について詳細に検討  
 社会に発信するプログラム名については、事業推進委員会(仮称)において検討